

会派議員派遣報告書(別紙)

調査研究の活動報告

●議会の役割・議員の役割について

「人口減少時代」に入った現在、自治体において、様々な仕組みを変えていく必要がある。過去の「拡大」の過程では、国の成長戦略にのっとった政策決定が行われるのが主であったが、人口が減る中では、「質を高め、うまく小さくしていく」ことが求められており、その過程においては、それぞれ地域の違いを考慮し、自分達で考え、決めていく、つまり「自治」の重要性が高まっている。

・合意形成の中心としての議会

議会は、合議制の意思決定機関である。首長が市民全体の代表であるのに対し、議員は支持者の声を代弁しながら議論し、合意形成をはかっていくものであり、議員間討議が議会の中心となるべきである。

・住民の権利

地方議員は、国会議員のように全てを委ねられているわけではない。普段は二元代表制という形の間接民主主義であるが、いざという時には直接民主制として、住民の請求によって市長のリコール、議会の解散を行うことができる。また、議会基本条例は、地方自治法の延長ではなく、議会に対する住民の権利を明確にするべきものであり、議会としての意思決定過程に住民の参加の権利を保障することが重要である。

・地域のまちづくりに必要な情報

「市長には情報量で敵わない」という声が議会から多くきかれるが、「地域のまちづくりに必要な情報」とは、地域の間、生活の間にある「市民の声」であり、市が持つ国の制度等の情報とは異なるものである。市民の声を統合する市長、市民の声を代弁・合議により意思決定する議会は、ともに、「どれだけ市民と結び付けるか」が重要である。

・パブリックのルールづくり

多種多様な「まちの課題」を、誰が、どのように、解決するべきか、またその際に税金を使うべきか、当事者間で話し合う必要がある。例えば、「公益」の「公」とは誰か？「益」とは何か？といった定義すら、個々人で異なるが、違う考えをそれぞれ持つことは大切であり、それを持ち寄って、みんなで決めるプロセスこそが民主主義である。その過程によって、その地域のルール(パブリックルール)がつけられ、またコミュニティの絆が深まっていくのである。市による一元管理よりも、地域で管理するほうが、より効率が高く、成果が上がる場合がある。議員の役割としては、市民と行政、地域と行政の、単なるつなぎ役ではなく、パブリックの構成員自らがルールづくりをしていく一助となるべきである。

●市町村財政について

受講者がそれぞれの自治体の財政状況について、平成20年を基準として、平成24年度決算までの推移をエクセルの表、グラフで確認した。